

日本語と中国語における視覚本動詞に関する一考察

A Study of the Visual Verbs in Japanese and Chinese

劉 芳卉

LIU Fanghui

要旨： 本文以日语和汉语作为研究对象,对视觉动词的「見る」和「見える」以及“看”和“看见”进行考察。首先,根据字典确定以上四种动词所包含的意义。然后,根据数据库(『現代日本語書き言葉均衡コーパス(通常版)BCCWJ-NT』和《北京大学汉语语言研究中心语料库》)所调查的结果,说明「見る」和「見える」以及“看”和“看见”所包含的视觉意义的程度和非视觉意义的程度。最后,提取其中的例文逐个观察其特征,并对视觉意义和非视觉意义的两种用法进行分类和归纳。

1. はじめに

「視覚動詞」についての研究は主に英語において集中的に行われている。英語の視覚動詞には、‘see’、‘look’、‘watch’といったものがある。これらの視覚動詞の中で一般の英語学習者にとっても特徴的なのは‘see’の振る舞いである。一般に、視覚動詞は事物を実際に目で見ていることが基本であるが、‘see’はその事物を目で見ていなくても使用できる。例えば、英語辞典¹⁾では、以下のような例文が出ている。

(1) a. He is seeing birds.

(彼は鳥を見ている。)

b. Can I have a holiday next Monday? ~ I'll see.

(来週の月曜日、私は休んでもいいですか。~考えます。)

c. See if you can get him to stop talking.

(彼に話を止めさせるかどうか試してみてください。)

Swan (2005 : 493)

上の例において‘see’は(1a)では「見る」、(1b)は「考える」、(1c)は「試す」という意味を表している。次に、‘look’の例を見てみよう。

(2) a. I wasn't looking.

(私は見てなかった。)

ロングマン現代英英辞典 (2002 : 1074)

b. You look / You are looking very unhappy.

(あなたは見たところ、とても機嫌が悪そうだ。)

Swan (2005 : 311)

‘look’は「意識的に見ること」、「目を向けること」を表し一方で、‘seem’のような機能も持っている。すなわち、(2a)は視覚的「見る」であるのに対して(2b)は「みたい」という意味を表している。そして、‘watch’について確認しよう。

- (3) a. I usually watch a football match on Saturday afternoon.
(私は通常土曜日の午後にサッカーの試合を見る。)

Swan (2005 : 493)

- b. Watch the milk doesn't boil over.
(牛乳があふれないように気をつける。)

- c. Can you watch the kids for a couple of hours tonight?
(今晚の何時間で子供の面倒を見てくれる。)

ロングマン現代英英辞典 (2002 : 2035)

(3a)は「見る」、(3b)は「注意する」、(3c)は「面倒を見る」というそれぞれの意味を表している。

以上のように、‘see’と‘watch’については明確に視覚的意味と非視覚的意味の両方が見られる。一方で、‘look’についてはもっぱら視覚的にのみ使われる。このように、視覚動詞と一言で言っても様々に使い方に幅があることが分かる。

本稿では、この視覚動詞について日本語、中国語でどのように用いられているのかを探りたい。

2. 日本語の視覚動詞

日本語の視覚動詞とは、いわゆる「見る」ないしは「みる」及びその類似表現、例えば、「観る」、「診る」、「看る」、「観察する」、「眺める」などの動詞である。本来の意味は、すべて目で観察することという意味を含めているが、実際にそれ以外の意味も含まれている。本稿はこの視覚動詞の中で最も使われる本動詞の「見る」と「見える」に絞って分析し、他の同音異義語とサ変動詞またその同義語は研究外として除外する。また、「見る」から派生してきた助動詞の「～みたい」と補助動詞の「～てみる」も取り扱わないこととする。

2.1 「見る」

日本国語辞典²⁾では、「見る」の意味について多くの解釈が掲載されている。その多くの意味は「情報入手の方法」の見方から分類すれば、大きく二つに分類されると思われる。すなわち、直接に目で観察すること(視覚的)とそうではないこと(非視覚的)である。まず、下記の現象を挙げる。

[一] 目にとめる。目で事物の存在を感じる。

- (4) 空を見る。
(看天空。)

(作例)

[二] 目にとめてこれこれだと思ふ。物事をこうだと判断する。

(5) あれを人体の美、レンブラントによれば神の造化の妙を示している人物の光栄ある肖像だと見るためには、ぼくらが経験してきたような美意識と思想の転換が必要なのだ。

(如果你认为那是一个为了体现伦勃朗神造化的光荣的人物肖像, 那就需要我们有我们所经历过的美意识和思想的转换。)

(加賀 乙彦 『雲の都』)

[三] 経験する。ある物事を身に受ける。

(6) 痛い目を見る。

(吃苦头³⁾。)

(作例)

[四] 人の気持や意志、物の質などがどうであるかをためす。

(7) 煮物の味を見る。

(尝菜的味道。)

(作例)

[五] 悟り知る。分かる。

(8) そこに私は彼らの文学者としてのぎりぎりの「良心」を見るのであり、単に彼らの旧情を暴露して、死人に鞭打つつもりはない。

(我只是看他们文学家的“良心”, 单纯地揭露他们的旧情, 不打算鞭策死人。)

(川村 湊『群像』)

(4) は目で事物の存在をとらえる最も基本的な意味である。すなわち、視覚的「見る」である。そして、(5) — (8) はいずれも非視覚的な「見る」である。まず、(5) は観察し、判断するという意味を含む文であるが、ここの「見る」はむしろ「見られる」や「思われる」などのような自発的な意味がある。そして、(6) の例文は「痛い目」という物は具体的に観察することができないため、ここでの「見る」は「身に受ける」や「経験する」という意味を表している。また、(7) では、「煮物」を作る過程は観察することができ、つまりその煮物は食べられるかどうかについては目で把握できるが、味覚そのものは視覚から得るものではない。これは視覚の「見る」ではなく、味覚によって物事を知るという意味の「見る」である。また、補助動詞の「～てみる」は [四] の「ためす」という意味を表し、文法的または意味的形式なのではないかと考えられる。最後の (8) も、「見る」は非視覚的な認識を表している。心臓のような具体的な物は目で観察できる、すなわち視覚に捉えられる一方、「良心」は具体的な物ではなく、抽象的な概念であるため、ここの「見る」は非視覚的な概念であり、「悟り知る」や「分かる」の意味を表している。

前述の例文を踏まえて、コーパス⁴⁾ の用例を調査して、さらに考察していこう。それぞれの用法について調べると、「見る」の視覚的用法、非視覚的用法の分布は以下のようになる。

分類	例数	比率
視覚的「見る」	72	72 (%)
非視覚的「見る」	28	28 (%)
合計	100	100.0 (%)

表1「見る」の分類について

本節における視覚的「見る」と非視覚的「見る」の分類判断の基準について説明する。「見る」が視覚的と非視覚的のどちらに属するか判断の基準は、「物を見る」かまたは「事を見る」かのどちらかということである。つまり、「物を見る」の場合は視覚的「見る」に属し、「事を見る」の場合は非視覚的「見る」である。例えば、

【視覚的「見る」】

(9) 大きな鉄船は巨大な壁のように目の前をふさいでいる。近くで見ると錆びて黒に近い色であった。

(巨大的鉄船像巨大的墙堵住了眼前。从近处看，是生锈的近似于黑色的颜色。)

(小坂 春生『五十メートルの戦記』)

【非視覚的「見る」】

(10) (前略) 千六百円脅威論と崩壊論が交錯する中国。著者は複眼的に見るバランス感覚が必要と言う。

(作者认为有必要以多视角来看中国的一千六百元的威胁论和崩溃论。)

(永江 朗『エコノミスト』)

2.2. 「見える」

日本国語辞典では、「見える」⁵⁾ についての記述も多い。前節の「見る」との対応関係を考察するために、辞典の例文に挙げられている視覚的な「見える」と非視覚的な「見える」に分類することができることが望ましいが、上記の辞典に挙げられている「見える」はすべて「見る」という動作と関係があり、「視覚的な物」と解される。視覚的、非視覚的な用法を分類する基準は、前節と同様、節末に述べる。

[一] 自然に目にはいる。目にうつる。

(11) 向こうに鉄塔が見える。

(可以看见对面的铁塔。)

(『明鏡国語辞典』)

[二] 見ることができる。

(12) 猫は暗がりでもよく目が見える。

(猫在阴暗处也可以看得清楚。)

(『明鏡国語辞典』)

[三] 目で見て判断がつく。分かる。

(13) 赤や青の瓦を葺いた家々の屋根や、銀行や、デパートの屋上が小さく見える様子は、まるで人形の家のようにです。

(铺着红色或蓝色瓦片的家家户户的屋顶, 银行和商场的屋顶看上去小小的样子, 简直就像一个洋娃娃的家。)

(村上 政彦『ニュースキャスターはこのように語った』)

[四] 文字に書かれる。書物に載る。

(14) (前略) その下に「熱帯魚、錦鯉、金魚、飼育器具販売、飼育相談」という文字が見える。

(下面能看见“热带鱼、锦鲤、金鱼、出售饲养器具和饲养咨询”等字样。)

(東海林 さだお『オール讀物』)

[五] 目で見て…と思われる。そう感じられる。

(15) 佐々木さんの表情に疲れが見える。

(佐佐木の表情看上去很累。)

(作例)

(11) は「自然に目に入る」、「目に映る」など、無意識で見るという意味の文である。そして、(12) は「猫は夜に物を見ることができる」という文と同じように、見るという能力があることを言いたいと思われる。つまり、猫が夜でもよく物が見えるという能力を持っていることである。(13) は、目で捉えたこと（視覚的情報）に基づき判断を下した文である。⁹⁾ (14) は「文字に書かれる」、「書物に載る」という意味を表している。また、(15) では、表情などを見てどのように感じられるかを示している。以上の日本国語辞典に挙げられている用例はすべて視覚にかかわっている。一方で、下記の例は、非視覚的と考えられる例である。

(16) 近代文明の誕生は、一見⁷⁾ この民族移動とは無関係に見える。

(近代文明的诞生乍看与这个民族的移动毫无关系⁸⁾。)

(安田 喜憲『気候変動の文明史』)

(17) 実際に行う仕事の中には、たとえばイベントの準備や手配など、情報活動とは無縁に見えるものも少なくありません。

(在实际的工作中, 比如活动的准备、安排等看上去/∅与信息活动无关的东西也不在少数。)

(大島 正武『販売促進部』)

(16) における「関係」((17) の「無縁」も同じ) ということは抽象的な物や概念として目で実際に観察できないため、そこでの「見える」は視覚的なものだとはみなせない。この二つの文はすべて「判断」の意味を持つ文であり、上記の (13) とは異なっている。

すなわち、(13) は実際の視覚情報に基づいて判断を下しているが、(16) と (17) はそうではない。つまり、(16) と (17) は、非視覚情報に基づいて判断を下している文である。

この区別を前節で行った「見る」の用例と同様にコーパス⁸⁾の用例調査をした。以下が、「見える」の視覚的または非視覚的用例の分布である。

分類	例数	比率
視覚的「見える」	70	70 (%)
非視覚的「見える」	30	30 (%)
合計	100	100.0 (%)

表2 「見える」の分類について

本節における視覚的「見える」と非視覚的「見える」の分類判断の基準について説明する。「見える」が視覚的と非視覚的のどちらに属するかの判断の基準は、前節の「見る」と同じように、「物を見る」かまたは「事を見る」かのどちらかということである。つまり、「物を見る」の場合は視覚的「見える」に属し、「事を見る」の場合は非視覚的「見える」である。例えば、

【視覚的「見える」】

(18) 写真に見えるミゼットは紙で自作したもので2センチくらいしかない。

(照片上看到的花饰只能在纸上自制且只有2厘米左右。)

(森 博嗣『森博嗣のミステリィエ工作室』)

【非視覚的「見える」】

(19) (前略) ようになったというか、何のために走っているのかが明確に見えるようになってきました。

(〔省略〕好像能明确地看到/知道为了什么而跑。)

(高木 虎之介『AUTO SPORT』)

以上、日本語の視覚動詞「見る」と「見える」について用例とその分布を観察した。次節では、中国語の視覚動詞“看”と“看见”について検証する。

3. 中国語の視覚動詞

中国語の視覚動詞についての分類や定義を含む体系的な記述はほとんどない。⁹⁾ 本稿では、中国語の視覚動詞の中で最も使われる本動詞の“看”と“看见”を取り上げ分析していく。

3.1 看

基礎中国語辞典¹⁰⁾によると、“看(kàn)”は「見る」という意味のみならず、「判断」や「～と考える」または「試してみる」などの意味もあるとしている。また、もう一つの

声調が異なる“看 (kān)”は「見張る」、「番をする」の意味を表している。例えば、“看孩子”（子供の面倒を見る），“看门”（門番をする）。しかしながら、“看 (kān)”の用例調査を行った結果、すべての用法が視覚的な用法だと考えられる。そのため、以下では、“看 (kàn)”のみについて論述し、声調表示は省略する。“看”についても、前述の日本語の現象と同様に、視覚的と非視覚的な二つの分類ができると考えられる。まず、次にそうした現象を挙げる。

[一] 見る。眺める。

(20) 看电视。/ 看小说。

(テレビを見る。/ 小説を読む。)

(上野：364)

[二] ～と考える。判断する。

(21) 我看应该这么办。你看怎么样？¹¹⁾

(僕はこうすべきだと思う。あなたはどう思いますか。)

(上野：364)

[三] 試してみる。

(22) 我先做做看。

(まずやってみる。)

(作例)

(20) は目で事物の存在を捉える最も基本の意味を持つ視覚的“看”の例である。一方、(21) と (22) は非視覚的な“看”であるが、そのうち (22) の“看”は動詞の後ろに置かれ補助動詞として用いられている。本稿は本動詞の用法にのみ焦点を当てる研究であるから、この補助動詞の“看”は取り扱わないこととする。(21) では、ある出来事について、みんなの意見を問う時“看”を用いて、「見方」や「思う」という意味を表しており、非視覚的“看”であると考えられる。

前述の日本語の現象と比較対照するために、中国語の例文についてのコーパス¹²⁾ 調査を行った。“看”の視覚的または非視覚的用法の割合は以下の表3のようになる。

分類	例数	比率
視覚的“看”	64	64 (%)
非視覚的“看”	36	36 (%)
合計	100	100.0 (%)

表3 “看”の分類について

視覚的“看”と非視覚的“看”の判断の基準は日本語の「見る」と同様に、「物を見る」の場合は視覚的“看”であり、「事を見る」ことは非視覚的“看”に属する。例えば、

【視覚的“看”】

- (23) 他在看一本有趣的书。
(彼はある面白い本を読んでいる。)

(CCL)

【非視覚的“看”】

- (24) 应该通过现象看本质。
(現象を通して本質を見るべきだ。)

(CCL)

3.2 看见

基礎中国語辞典では、“看见”は「見える」、「目にする」という意味を表している。“看见”は“看”のような典型的な動作動詞ではなく、「見る」という動作の「結果」という側面が強調されている。つまり、“看见”における“看”は動作を表し、“见”はその“看”の動作の結果の「見える」ということに焦点を当てていると言えるだろう。また、劉(1991: 451)によれば、“见”の意味を「見て、そして結果を得る」と説明し、動詞の“看”、“听”の後に置かれて「動作が結果を得る」という意味を表すこととしている。この意味で“看见”は日本語の「見える」に対応した表現であると言える。“看见”の用法について『基礎中国語辞典』では、すべては視覚的なものである用例のみが上がっている。例えば、

- (25) 我们用显微镜可以清楚地看见微生物。
(私たちは顕微鏡で微生物がはっきり見えます。)

(作例)

- (26) 白天也能看见这颗星。
(昼でもこの星が見える。)

(CCL)

しかしながら、次の例文は、視覚的“看见”とは言えないだろう。

- (27) 我很高兴看见两国的关系越来越好。
(私は両国の関係がよくなることを知って、うれしいです。)

(CCL)

- (28) 阳光下甚至能看见命运在插手刘云的人生。
(太陽の下で、運命は劉雲の人生に介入することが見える。)

(CCL)

(27)の“关系”と(28)の“命运”はどちらも抽象的なものとして、前述と同様に直接人間の目で観察できないため、この二つの“看见”は非視覚的なものだと考えられる。これらの用法についてコーパス¹³⁾に基づいて、整理したのが表4である。

分類	例数	比率
視覚的“看见”	88	88（％）
非視覚的“看见”	12	12（％）
合計	100	100.0（％）

表4 “看见” の分類について

ここでの分類の基準も前述のとおりである。すなわち、「物が見える」の“看见”と「事が見える」の“看见”を区別している。前者は視覚的“看见”と見なされ、後者は非視覚的“看见”と考えることができる。例えば、

【視覚的“看见”】

(29) OK 了, 看见自己的号码了吧。

(オーケーだった、自分の番号が見えるでしょう。)

(CCL)

【非視覚的“看见”】

(30) 他没看见历史, 也不想看。

(彼は歴史を知らないし、知りたくもない。)

(CCL)

以上のように、日中両言語の視覚本動詞について調べた。コーパス調査の結果は大雑把に言って、「四つの本動詞が持っている意味は、それぞれ非視覚的より視覚的な意味が多い」ということがわかった。次節では、それぞれの動詞の分類をより詳細に見て行こう。

4. 議論

前節までに、日本語と中国語の視覚動詞は、両言語とも、視覚的と非視覚的な用法が見られるということを確認した。その結果、当たり前のことであるが、大多数の用例は、視覚的意味を表すものであるということが判明した。日本語では、「見る」と「見える」についてはおよそ70%が視覚的用法であり、30%が非視覚的な用法となっている。一方、中国語においては“看”は64%と比較的視覚的用法の割合が低い。それに対し、“看见”は88%ともっぱら視覚的に用いられていると言えるだろう。これらの視覚動詞は本来の意味で用いられているものと考えられる。それに対して、非視覚的な意味は本来の意味から意味が拡張し、「知る」や「理解する」などを表すようになったと言える。

私たちは視覚情報（見るもの）に基づき理解して判断することができる。視覚は重要な情報源であり、その情報に基づいて判断を行っている。つまり、私たち人間は目で見た情報を長期記憶として脳に保存して、それから内部反応で理解や知識などの自分の常識のように覚えていくことができるわけである。さらに、田中（2000：160）は以下のように述べている。

「視覚領域から高次認識領域¹⁴⁾への「みる」の意味拡張は、類似性に基づく異なる意味

領域への表現の転用、すなわちメタファーということになる。例えば、空間的な「先（前方）をみる」から時間的な「先（未来）をみる」への拡張においては、「先」も「みる」も典型的なメタファーと言える]

つまり、「見る」と“看”の非視覚的意味はもともと視覚的意味に基づくメタファー表現の一種として考えることができる。

また、高次認識によって視覚動詞の look とそうでない see の視覚経験を比較する場合、河野（2013：33）では、深田（2001）を引用して、以下のようにまとめられている。

(31) <視覚動詞 look の意味拡張の背後にある視覚経験>

- a. (運動) ある対象あるいはある出来事に目を向ける
- b. (知覚) その対象あるいはある出来事の視覚的印象を得る
- c. (高次認知) その対象あるいはある出来事の視覚的印象からそれが何であるか判断したり、またそこからさらに何かを推論したりする
- d. (運動) その対象あるいは出来事に対処する

(32) <視覚動詞 see の意味拡張の背後にある視覚経験>

- a. (運動) ある対象あるいはある出来事に目を向け、それを（完全に）視界に捉える
- b. (知覚) その対象や出来事の視覚情報を得る
- c. (高次認知) その対象や出来事を理解し、それらについて何らかの推論を行う
- d. (運動) その対象あるいは出来事に対処する

深田（2001）は上記の視覚経験について以下のように説明している。すなわち、視覚動詞 look は、対象に目を向けるという原義をもつのに対し、視覚動詞 see は、目を向けるだけでなく、それを視界に捉える段階までを本来的に含意している。それが言語的には、視覚動詞 look と see の意味のちがいとして現れ、視覚対象を視界に捉えることを含意しないという視覚経験を反映した look は真実性を前提としないのに対し see は真実性を前提とすると考えた。

さらに、中国語の“看”について、劉（2017：42）¹⁵⁾では、「“看”の意味は「見る」ではなく、「思う」に変化して、そして文自体も陳述から推量に変わっていることは文法化の過程が進んでいることである」と述べられている。例えば、上記の（21）と下記の（33）のように、

(33) 我看应该这样说啊。

（こう言うはずだと思う / 考えるよ。）

(CCL)

最後に、再び本稿の冒頭における英語の‘see’について考察をすすめる。冒頭の例を再掲する。

(34) I see some people in the garden.

（庭に数人の人が見える。）

(35) I see you. (you = what you mean)

（君の言うことは分かる。）

（リーダーズ英和辞典）

‘see’は本来の意味すなわち「見る／見える」から拡張された意味「分かる」、「悟る」に変わっているが、ここで具体的なものから抽象的なものに進んでいることが分かる。さらに英語辞典¹⁶⁾ (pp.493) では、‘see’の本来の「自然に目に入る (comes to our eyes)」という意味はほとんど失われて、「分かる」、「理解する」などの意味に変化したと記載されている。本稿ではコーパス調査した結果によって、中国語と日本語の視覚動詞は英語の‘see’ほどは意味の拡張が進んでいないことが予想される。これについては英語の詳細な分析が必要である。一方で、英語においても視覚動詞の意味の拡張の度合いは動詞によって異なる、‘see’が「分かる」という非視覚的意味で多く用いられるのに対し、‘look’はほぼ視覚的にのみ用いられる。中国語においても“看”はかなりの程度拡張された意味で用いられており、一方で“看见”はほぼ視覚的な意味に限られるということがわかった。

5. まとめ

本稿では、対照言語学の立場から、これまであまり論じられていなかった日本語の視覚動詞「見る」と「見える」及び中国語の視覚動詞“看”と“看见”を取り上げ、意味の記述を行った。両言語の視覚動詞は、視覚的と非視覚的の両方の意味を表しうるということが分かった。しかし、コーパスの調査を行った結果、その分布は動詞ごとに異なるということが判明した。「見る」と「見える」及び“看”と“看见”について、その意味の拡張の度合いは異なりを見せる。

本稿では、これらの観察をもとに考察を進めたが、以下のような課題を残した。

・なぜ動詞によって拡張の度合いの差が生まれるのか。

・視覚動詞は日中両言語とも補助動詞としての用法があるが、この補助動詞の用法は本稿で見た意味の拡張の度合いとどのように関係しているのだろうか？

これらの二つの問題については、今後の課題としたい。また、本稿においては、私が博士論文で扱う「証拠性」（情報のソースを表す文法体系）を表すものの一つとしての視覚に焦点を当てて論じてきたものであるが、今後は、本稿で扱った視覚のモダリティを他のモダリティ¹⁷⁾、すなわち、聴覚（伝聞、引用）、その他の分野へ拡大していくことを目指したい。また、コーパスの用例調査もより洗練した方法論を確立していきたい。すなわち、本稿では、分類のための具体的な基準は決めたものの、一方で筆者の判断によって例文を分類したため、結果に多少の偏りがあったと思われる。今後は、これについても、より客観的な結果を出したい。

注

- 1) *Practical English Usage: Third Editions*
- 2) 筆者はこの辞典における日本語の古典文の例文にしたがって、現代日本語の例文を入れ替えた。また、敬語表現などの現象は除外した。
- 3) この〇(空集合)は訳文において、訳さなくても文全体の意味に影響を与えないという意味で表記している。
- 4) 現代日本語書き言葉均衡コーパス(通常版)BCCWJ-NT 全体数40,517,828件のうち、出版された新聞、雑誌、書籍から抽出した例文は7,570件に上る。本研究では、この7,570件の“見る”の用例から100件を抽出した。
- 5) 本節は本動詞の「見える」を研究し、「～みえてくる」などのような形は取り扱わない。
- 6) 判断を表す内容を、体言+断定の助動詞「だ」の連用形「に」、形容動詞連用形「～に」、形容詞連用形「～く」、動詞の連用形+「て/で」などの形で受ける。
- 7) ここの「一見」とは副詞的に用いて、「ちょっと見たところ」の意味を表している。
- 8) 現代日本語書き言葉均衡コーパス(通常版)BCCWJ-NT 全体数40,517,828件のうち、出版された新聞、雑誌、書籍から抽出した例文は4,118件に上る。本研究では、この4,118件の“見える”の用例から100件を抽出した。
- 9) 例えば、符(1995)では、視覚動詞の基本の意味について分類したが、意味の拡張に関することを一切提示しなかった。また、胡(2002)は、視覚動詞“看”の拡張の意味があるということ述べたが、その拡張された意味の用法、特徴などを論じていなかった。
- 10) 上野恵司(2002:364)
- 11) ここの人称制限問題は除外する。
- 12) 北京大学漢語語言研究センター語料庫(CCLと略す)。全体数783,463,175件のうち、現代中国語の語数は581,794,456件に上る。本稿では、この581,794,456件から“看(N, 2-5)”を入力してから出現した1,046件の用例を100個抽出した。ここの(N, 2-5)は“看”の後に2-5文字の名詞を絞り出すという意味である。
- 13) 北京大学漢語語言研究センター語料庫(CCLと略す)。全体数783,463,175件のうち、現代中国語の語数は581,794,456件に上る。本稿では、この581,794,456件から“看见”を入力してから出現の用例を100個抽出した。
- 14) 田中(2000)では、高次認識とは、単なる視覚行為ではなく、抽象物を理解し・判断することである。
- 15) 劉 芳卉(2017)「中国語の副詞的挿入句“看上去”の「証拠性」：知覚表現の文法化について」『証拠性(Evidentiality)の日英対照研究とその教育への応用：InferenceとAssumptionに関する言語横断的研究』千葉大学人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書第316号,2017年.31-44.
- 16) *Practical English Usage: Third Editions*
- 17) ここで用いているモダリティという語は、言語学で用いられるいわゆる文法カテゴリーとしてのモダリティではなく、さまざまな感覚の種類を表すという意味でのモダリティである。

辞書

Swan, Michael. (2016) *Practical English Usage: Third Edition*, Oxford University Press 2016.12
 上野 恵司 (2002) 『基礎中国語辞典』NHK 出版 2002/1
 『日本国語辞典オンライン版』 <http://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002040d84dfdT6g7Xvt>
 『ロングマン現代英英辞典 [3訂新版]』桐原書店 2002

参考文献

河野 亘 (2013) 「英語知覚動詞構文の証拠性用法に関する認知文法的考察」京都大学大学院『言語科学論集 = Papers in linguistic science』, 19: 27-49
 田中 聡子 (2000) 「視覚から高次認識への連続性」日本認知言語学会第一回大会 2000.9.9
 劉 月華 (1991) 『現代中国語文法総覧』(上) くろしお出版
 劉 芳卉 (2017) 「中国語の副詞的挿入句“看上去”の「証拠性」：知覚表現の文法化について」『証拠性(Evidentiality)の日英対照研究とその教育への応用：InferenceとAssumptionに関する言語横断的研究』千葉大学人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書第316、31-44.

[補足] 本稿は、千葉大学大学院後期課程における2017年度前期全体研究会で行った口頭発表に、先生方のご意見とご助言をいただいて一部補足しながらまとめたものである。

出典のコーパス

『現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）』BCCWJ-NT <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

《北京大学汉语语言研究中心语料库》<http://ccl.pku.edu.cn/>